

子宮頸がん検診における無料クーポン券について～受診率向上のために～

○福島京子、高根百合子、塚原里美、千葉聖子、佐藤寿子、安達清子、柴田眞一、高橋和由、本田 修、菅野 薫、鈴木 仁

公益財団法人福島県保健衛生協会

【目的】「女性特有のがん検診推進事業」の一環として、2009年度より子宮頸がん検診無料クーポン券（以下クーポン）の配布が実施された。今回、クーポン導入の効果を知る目的で、導入前後の福島県における子宮頸がん検診実施状況について検討した。

【対象と方法】クーポンによる子宮頸がん検診が実施された2010年度とクーポン制度がなかった2008年度の受診者を対象とし、クーポン対象年齢（21歳、26歳、31歳、36歳、41歳）とクーポン対象外年齢とに分け、受診者

数と受診率、初回受診者の状況、および検診成績について比較検討した。受診率を算出する際の受診対象者は、福島県ホームページに掲載の資料を用い、5歳年代別女性人口を5等分した。隔年検診を実施している自治体では、その1/2を対象として用いた。

【結果】 2010年度の受診者数は79,674名で、クーポン制度がなかった2008年の受診者65,390名より14,284名増加していた。2010年度のクーポン対象年齢は、21歳1,195名、26歳2,467名、31歳3,062名、36歳4,348名、41歳3,320名の計14,392名であり、2008年度の計3,296名に比して11,096名の増加をみた。クーポン対象年齢の受診率は、21歳で0.7から18.2%、26歳で7.2から25.1%、31歳で4.8から36.7%、36歳では12.3から33.9%、41歳では6.9から39.6%とクーポン制度のない2008年度と比べて著しく上昇しており、特に31歳と41歳では約30%の増加がみられた。また、2008年度のクーポン対象年齢での初回受診率は55.8%であった

のに対し、2010年度では76.2%と20.4%増加していた。一方、クーポン対象外年齢での初回受診率はわずかに減少していた。要精検数は2010年度581件（0.73%）でそのうちクーポン対象年齢は227件であり、2008年度の51件に比べて176件の増加をみた。C I N 2以上の異形成は、2008年度11件（0.33%）、2010年度61件（0.42%）発見され、50件増加していた。子宮頸がんは、5件（0.15%）から30件（0.21%）へと25件の増加がみられた。

【まとめ】無料クーポン券の導入により、対象とされた年齢での受診率は大幅に伸びた。とくに初回受診率の増加が目立っていた。また、さらにC I N 2以上の病変の発見数が増えた。これは異形成や子宮頸がんが多い年齢層（20～40歳代）での受診率の上昇が寄与しているためと思われた。一方、クーポンの対象とされていない年齢では、クーポン対象年齢に比して受診者数には変化がなかったが、

初回受診率は低かった。今後、更なる受診率向上を期するためには、今回のような無料クーポンなどの施策や啓発活動を継続的にすすめる必要があると考える。